

【警察署統合の成果】

平成27年6月
徳島県警察本部

警察署統合の背景

○ 現状

署員数が**50人以下の小規模警察署**では、特に刑事課や交通課などの**本署勤務員が不足**

○ 問題点

- ① 夜間・休日の体制が脆弱
- ② 広域化、スピード化、多様化する事案に的確に対応することができないおそれ
- ③ 本署勤務員の不足を補うため、交番・駐在所に警察官が不在

警察署の統合

○ 統合の目的

組織体制の強化による**管内治安の維持向上**

○ 平成26年4月統合

- ・ 旧吉野川署 45人 → 阿波吉野川署 配置人数 87人
- ・ 旧阿波署 38人
- ・ 旧美馬署 37人 → 美馬署 配置人数 71人
- ・ 旧つるぎ署 32人

※ 配置人数は、平成26年1月1日と平成27年1月1日の比較

統合署の体制

○ 現場活動する警察官の増強

課長以上の管理部門の警察官を可能な限り削減し、現場活動を行う警察官に振り分け

- ・ 阿波吉野川署 管理部門 8人（-4人）
係長以下 **73人（+2人）**
機動捜査隊 **6人（+6人）**
合計 87人（+4人）
- ・ 美馬署 管理部門 8人（-4人）
係長以下 **57人（±0人）**
広域自動車警ら隊 **6人（+6人）**
合計 71人（+2人）

○ 分庁舎を活用した警戒体制等の維持

- ・ 阿波吉野川署 → 本署：旧吉野川署
分庁舎：旧阿波署
- ・ 美馬署 → 本署：旧美馬署
分庁舎：旧つるぎ署

統合の効果

○ パトロールと初動対応力の強化

警ら用パトカーの2台運用、広域自動車警ら隊、機動捜査隊との**連携運用**により、パトロールと初動対応力が強化!

○ 重大な事件・事故に対する捜査力の強化

刑事課や交通課などの本署勤務員が増え、**警察官の集中的投入が可能!**
刑事生活安全課が生活安全課と刑事課に分かれ、**生活安全警察の専門性が高まる!**

○ 夜間・休日の勤務体制の強化

夜間・休日は5~6人で勤務していたところ、**統合後10~11人**になり、夜間・休日の勤務体制が強化!

○ 不在交番・駐在所の解消

本署勤務員の不足は、交番・駐在所員で補うことが多かったが、統合により本署勤務員が増え、**交番・駐在所員の活動時間が確保!**

統合の成果

○ 犯罪統計等の比較

統合署における**刑法犯認知件数、交通事故発生件数が大きく減少!**
統合署では**刑法犯検挙率等も向上!**

➢ 刑法犯認知件数

- ・ 阿波吉野川署 -28.3%
- ・ 美馬署 -27.2%
- ・ 県内 -16.1%

➢ 交通事故発生件数

- ・ 阿波吉野川署 -9.6%
- ・ 美馬署 -28.1%
- ・ 県内 -11.4%

➢ 刑法犯検挙率

- ・ 阿波吉野川署 70.0%
- ・ 美馬署 90.1%
- ・ 県内 46.3%

➢ 特別法犯検挙件数

- ・ 阿波吉野川署 +292.9%
- ・ 美馬署 +207.4%
- ・ 県内 +18.9%

○ 運用面の状況

地域警察官の**パトロール時間が増加!**
レスポンスタイムの短縮効果!

➢ パトロール時間

- ・ 阿波吉野川署 +2,448時間
- ・ 美馬署 +1,488時間

➢ レスポンスタイム

- ・ 阿波吉野川署 -20秒
- ・ 美馬署 +8秒

○ 関係団体との連携状況

交番・駐在所員の活動時間が確保されたほか、生活安全課員及び交通課員が増えたことで、**関係団体との連携が強化!**

○ 財政縮減の効果

西部4警察署の庁舎を同規模のまま、新たに整備した場合、用地取得などの費用を除き、1署当たり20億円、計80億円程度が必要

将来的には**相当な経費削減!**

○ 住民アンケートの結果

➢ 良くなったと感じること

- ・ パトカーや警察官をよく見かけるようになった(半数以上)
- ・ 特にない(約3割)

➢ 不安や不便に感じること

- ・ 現場到着が遅くなったのではないかと等(約2割)
- ・ 不安や不便を感じることはない(半数以上)

➢ 統合について

- ・ してよかった(約3割)
- ・ しない方がよかった(約1割)

※ 「犯罪統計等の比較」及び「運用面の状況」については、平成26年度（4月から翌年3月までの間）の数値を前年度と比較